



会報

SHINSHIYOU

神私幼

平成24年9月1日

第181号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：(社)神奈川県私立幼稚園連合会
 発行人：会長 渡邊 眞一
 編集人：神私幼総務部(広報室)
 発行：年4回(6月・9月・12月・3月)
 発行部数：1700部

<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F
 TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209



社団法人神奈川県私立幼稚園連合会



第27回 全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修 神奈川大会 開催



INDEX

2-7 特集

第27回
全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修
神奈川大会を振り返って

8

連載 副会長に聞く
第1回 県連の役割を考える ●副会長 小澤 俊通
平成25年度 神奈川県予算要望 ●振興部長 武藤 保之

9 研究部・研修事業部だより

10

シリーズ 地区協会長は考える 第1回

●横須賀協会 岩波 啓之／●相模原協会 金子 英行

11

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会
会長就任のご挨拶

●父母の会連合会 会長 岩瀬 久美子

教育相談室から

ほとんど聞かれなくなった「お互い様」

●教育相談員 鈴木 敦子

12

研修会報告／県父母の会連合会委員総会開催報告／
平成24年度神奈川県連合会加盟園数・園児数



第27回 全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会 広く、深く、ていねいに保育の質を考える ～心が響きあう幼稚園教育を～

開催

去る8月2・3日の2日間、横浜みなとみらい地区パシフィコ横浜国立大ホール他にて第27回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会が開催されました。当日は、関東地区の8県から3,352名の教職員の方々にお集まりいただき、盛大に開催できました。

明日の保育につながった 大成功の大会

とにかく感謝

神奈川県では八年振りの関東地区大会で、二年前から準備に入りました。各部の先生方には大会の立案から大会終了まで、熱心なる検討のもと、関東地区各県から大勢の先生方をお迎えする大会づくりにご理解とご協力をいただきました。心からお礼を申し上げます。せっかくの神奈川大会なので『神奈川としての主張をしよう!』と、二十五のフォーラム、参加型の『ほいくの宝箱』、そして記念コンサート「神奈川フィルと遊ぶ―音を音楽を保育の場に―」の三分野をもつて大会の全体像をまとめました。大会テーマ「広く、深く、ていねいに保育の質を考える」には、研究部の先生方が中心となり、『二十一世紀の日本を担う今の子どもたちの健やかな育ちと幸せを希求しつつ、毎日しっかりと子どもたちと向きあえる保育者(先生)の姿が再考できる大会にしたい!』との願いを込めてくれました。この願いは三分野のすべてに共通するテーマになったと確信するところです。研究部、研修事業部の先生方、ありがとうございます。多方面からの学びが深まる機会になった神奈川大会の中心は、日頃の研究・研修の成果を参加者全員が共有し、明日の教育に生かしてほしい、との思いが伝わってくる大会でもありました。

十二協会の先生方に感謝

大会二日目のフォーラムは、十二協会に運営のお願いをしました。県内外の先生方を『おもてなしの心でお迎えしよう』と、それぞれの会場を中心にあらかじめ決まっていた役割分担のもと、実にみごとな運営をしてくれました。『研究の神奈川』として例年、各地区協会での大会運営のノウハウが十分に発揮されたものと考えます。十二協会それぞれの事情がある中、協会長をはじめ、フォーラムの運営に携わった先生方にお礼を申し上げます。

実行委員に感謝

今大会は途中役員等の改選などがあり、一抹の不安はありましたが、引き継ぎにお気づかいをいただいたこともあり、事務局を中心に、総務部、研究部、研修事業部、振興部、経営管理部、広報室、財務室それぞれが一丸となって運営に務めてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。なんといっても実行委員会は大会の要です。ご苦労も多々あったものと察しますが、それぞれ責任者の先生方が、しっかりとまとめてくれましたこと、改めてお礼を申し上げます。

四〇〇人余のお手伝い

大会期間中、十二協会から四〇〇人余の応援をいただきました。会場内外での裏方をお願いでした。暑い中の屋外での案内係、各県の受付・接待・案内係、会場内の係、協賛出展ブースの係、記念コンサート係、パネル展示の係、昼食手配係、そして全体企画・進行係、連絡係、救護係、記録係等、とにかく大勢の先生方のおかげで運営できました。特に各協会とも、次世代を担う先生方をお手伝いメンバーに登用してくれたことは、さすがでした。これらの先生方の交流の機会ともなり、今回の経験が各協会運営に役立つものと期待するところです。ご協力いただいた先生方、心からお礼を申し上げます。

公開研究保育開催園に感謝

免許状更新講習を兼ねていたとはいえ、夏季休業中に公開研究保育をお願いいたしました銀嶺幼稚園、川崎ふたば幼稚園には、県連を代表してお礼を申し上げます。日頃の園生活の一端を公開していただきましたが、ご迷惑もおかけしたのではないかと反省もしております。園長先生をはじめ担当の先生方、そして子どもたちに感謝いたします。ありがとうございました。

大好評だった神奈フィル

記念講演を記念コンサートにかえての神奈フィル演奏でした。一学期の疲れをとってほしいと思い、日頃なかなかフルオーケストラの音楽にひたる時間がとれない先生方へのプレゼントが今回のコンサートでした。おかげさまで大好評! 主催者としてうれしかったです。

広報室が大活躍

大会事務局に臨時の広報室を設けて、随時情報をホームページなどを通して発信、又、参加者の生の声を取材し、今後の紙面づくりに生かそうと、積極的な取材活動には頭が下がる思いでした。

最後にひと言

大規模な関東地区大会は今回が最後ということもあり、大会が無事に終り、ほっとするところです。十二協会長の先生方、実行委員の先生方、そして四〇〇人余のお手伝いの先生方、事務局の皆さん、知事をはじめ県当局の皆様、協賛会社の方々、と大勢の方に支えられての今大会でした。本当にありがとうございます。県連活動も二学期から平常に戻りますが、よろしく願います。



Reception レセプション

日時―1日目(8月2日) 18:00~
会場―横浜グランドインター
コンチネンタルホテル
にて

全日私幼連の香川会長をはじめ、関東地区会理事および県連役員、そしてゲスト・コーディネーター等の運営委員の皆様でレセプションを行い、懇親を深めました。





ほいくの宝箱

本大会史上初めて、参加園による展示コーナーを「ほいくの宝箱」として設けました。

県協会単位として十二団体、各園単位として六十九園が出展してくださいました。それぞれの園で建学の精神のもとに培われた文化を紹介しあうことは、来場者との対話の中で何より出展園の自信となり、また参観者にとっても主体的に本大会にのぞむきっかけになったと自負しております。これをきっかけにして、園同士が切磋琢磨し高めあう場が今後ますます増えていくことを願います。末筆ながら初企画という手探りの中、一日目の受付前から二日目の大会終了後まで、献身的に準備や片付けに携わってくださった総勢四〇名のスタッフの皆様へ、改めて感謝申し上げます。

(研修事業部 永保貴章)

ほいくの宝箱

本大会史上初めて、参加園による展示コーナーを「ほいくの宝箱」として設けました。



記念コンサート

神奈川フィルハーモニー管弦楽団と遊ぶ ～音を音楽を保育の場に～

関東地区教員研修神奈川大会「記念コンサート」を終えて 文化としてのクラシック音楽の可能性

永峰 大輔 ◆神奈川フィルハーモニー管弦楽団副指揮者



第二十七回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会のご成功、おめでとうございます。私ども神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏が、大会に花を添えることができたのであれば、これに勝る喜びはございません。

クラシック音楽を取り巻く環境は、日本に限らず全世界的な傾向として、年々厳しくなっているように感じます。このような状況の中で、クラシック音楽を「どうやって聴いていただくか」ということは、我々演奏家にとって非常に重要なテーマです。

今回の「記念コンサート」では、第一部ポプスステージ、第二部クラシックステージと、二つの異なる側面からオーケストラを楽しんでいただけるようにいたしました。第一部では、当団ポップス・オーケストラ音楽監督の藤野浩一が自らアレンジした名曲の数々に、会場は大いに盛り上がりつつあります。「マル・マル・モリ・モリ！」では、観客の先生方が大勢ステージに上られ、オーケストラに合わせて踊っていらつやいました。想定外のアドリブでしたが、楽しそうな先生方の笑顔が印象的でした。

第二部は、がらりと趣向を変え、オペラ

の序曲からスタートしました。池辺晋一郎「さか・さか・かさ」では、オーケストラの演奏を聴いて先生方にそれを真似して演奏して貰うという趣向に挑戦しました。みなさん、思い通りの楽器を持って集まっていただき、楽しく演奏に参加してくださいました。音階の上下から、「坂」や「傘」を想像してもらえたのではないかと思います。最後に、チャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」を、抜粋解説付きでお聞きいただきました。本来ならバレエという「映像」が入るところを、あえてそこを無くし、音楽だけでお楽しみいただいたわけです。

「クラシック音楽は、どうやって聴いたらいいかわからない」という声を良く耳にします。しかし、難しく考えることはありません。ただそこにあるものを受け入れ、そこからイメージをふくらませていけばいいのです。そのように聴かれたとき、音楽はその翼を大きく広げ、我々に素晴らしい豊かなものを与えてくれます。

イメージの力、それは子どもたちが一番持っているものです。「音を音楽を保育の場に」。まさに、そこから新しい文化の萌芽が生まれてくるのかもしれない。



出演 指揮・司会 ● 藤野浩一(第1部)／永峰大輔(第2部)
管 弦 楽 ● 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

曲目 第1部(神奈川フィルを楽しむコーナー)

1. 星に願いを
2. サンダーバード
3. アンダーソン／踊る子猫(メロディー探し)
4. 指揮者コーナー「ドラえもん」
5. みんなで歌おう「マル・マル・モリ・モリ！」
6. サウンド・オブ・ミュージック メドレー

第2部(クラシックコーナー)

1. 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」より「序曲」／フンパーティンク
2. 「さか・さか・かさ」／お客様との楽器などで共演曲：池辺晋一郎
3. バレエ「くるみ割り人形」より「抜粋」／チャイコフスキー

関東地区教員

研修大会を終えて

世代や地域を越えて一丸

経営管理部 鈴木 豊司



私はこの度、初めて関東地区教員研修大会に参加致しました。大会は両日共に天候にも恵まれ、関東圏より約三四〇名の皆様が集い、盛大に開催されました。経営管理部は初日、会場展示ブースに関する全般を担当し、参加企業の皆様へ、普段とは逆の立場で対応をさせて頂きました。大会ご出席の全ての皆様に、快適で充実した研修会をお過ごし頂く事を目標に活動した経験は、広い視野の要求される今後の幼稚

園経営に必ずや活かせるであろうと思います。また本年度任期初年の経営管理部員同士、当初は名前すら、うろ覚えの関係でしたが、本大会を支える時間の中で、世代・地域を超え、部員が一丸となることで、より深い関係を築く事ができました。

この様な素晴らしい大会に参加できました事に、心より感謝を申し上げます。

運営の難しさを知る

総務部次長 仁藤 一成

四月に総務部次長を拝命し、直ぐに関東地区大会と言う大規模な研修会を行うとの事で、不安を持っていました。

前年度より諸先輩方が準備をしているものを進めていきますが、いかにせん全体像がなかなか掴めず、一つ一つをこなして行くことに精いっぱいでした。各部室会や、現地視察を繰り返し、



最後に、諸先輩方、お手伝い頂いた先生方、参加の先生方に感謝を申し上げます。

participants interview

神

奈川フィルの演奏が会場全体を巻き込んで楽しめました。指揮者の方の進め方の気配りがとてもすごでした。二日目午前中のフォーラムでは、発表者の先生が保育をとて深く掘り下げていて、いい意味で頭をたくさん使わせていただきました。午後はバズセッションになるので、今度は私たちが積極的に意見交換をしたいと考えています。

(一般参加者 川崎協会 経験8年目)

初

日の神奈川フィルが参加型のコンサートだったのが最初から最後まで夢中になって楽しめました。フォーラムも皆さん熱心に聞いていられるので、とても刺激を受けました。

(一般参加者 茨城県 経験13年目)

ほ

いくの宝箱がとても充実していて、園の行事に参考になることがたくさんありました。昼食の合間に見ることができてすごく工夫がされている感じがします。

(一般参加者 川崎協会 経験9年目)

関

東地区教研大会は初めての参加ですが、規模がとても大きくてびっくりしました。案内してくれた人がとても親切で、嬉しかったです。ポロシャツがカッコいいですね。

(一般参加者 千葉県 経験3年目)

ほ

いくの宝箱の準備を通して、関東地区の様々な幼稚園の保育実践の勉強ができました。準備は大変でしたが、スタッフの一員として関東地区教研大会にかかわれたことはとてもラッキーでした。

(スタッフ 相模原協会 経験12年目)

コ

ンサートはとても楽しく参加ができました。今回は幼保一体型について発表をする中で自分自身もとても多くのことを学ぶことができました。また、他県からの参加者の皆さんをお迎えしてたくさん意見交換ができたので、とても有意義な大会になったように思います。

(発表者 横浜協会 園長12年目)

大会参加者数

県名	参加者数	協会名	参加者数
茨 城	85人	横 浜	897人
栃 木	93人	川 崎	427人
群 馬	79人	横須賀	121人
埼 玉	185人	藤 沢	98人
千 葉	272人	鎌 倉	135人
新 潟	64人	茅ヶ崎	81人
山 梨	80人	湘 央	200人
神奈川	2494人	小田原	48人
合計	3352人	相 和	175人
		相模原	193人
		逗 葉	40人
		厚 木	79人
		合計	2494人



Forum14
子どもの生活を通して、エネルギーへの興味関心を深める



銀嶺幼稚園



Forum17
日本の心、生活美を学び、保育に生かす



鎌倉建長寺



Forum18
海のいきものを通して環境教育を総合的に学ぶ
～水族館の裏側、飼育員体験～



横浜八景島シーパラダイス

自分のクラスの
子供と重なる部分が
あり、とても参考になる
発表でした。午後も
楽しみにしています。
相和協会
フォーラム8

子ども達の笑顔に
見られる「いいね!!」や
涙の裏に秘められた「いいね!!」
等、保育の中で様々な角度から
たくさん「いいね!!」を発見して
いきたいと思いました。
2学期に子ども達に会うことが
楽しみになりました！
川崎協会
フォーラム23

子どもが主体となった
園行事を主任という立場から、
どのように考え、若い先生たちと
どのようにかわりながら実施し
ていけば良いのかを勉強しようと
思い、参加をさせていただきました。
午前中の意見にはとても参考に
なることが多くあり参加をして
よかったと思います。
新潟県
フォーラム10

被災された園の
先生の話だったので、
身に迫る思いをして聞く
ことができました。私の園も
放射能の影響でいると苦労を
しているので、発表を夢中に
なって聞くことが
できました。
茨城県
フォーラム24

発表を聞いて
記録の大切さがよく
わかりました。自園に戻って
いろいろと参考にさせて
いただきます。
川崎協会
フォーラム7

私にとっては少し
難しい内容に思いますが、
一緒に参加をされている先輩の
先生方についていながら、
しっかり勉強をしようと
思います。
千葉県
フォーラム2

VOJEE
フォーラム参加者の声



Forum15
子どもたちが心を動かして生活する保育



川崎ふたば幼稚園



Forum19
幼児の育ちと造形～子どものアトリエの造形体験～



横浜美術館



Forum22
子どもがワクワクするような体操・運動遊び
～これも体操？あれも体操？～



横浜山手中華学園



Forum21
あそび心が世界をかえる！～響関するといつかかわりについて～



パシフィコ横浜



Forum23
広く、深く、ていねいに保育の質を考える
～あなたの保育ここが「いいね」！～



Forum23



Forum24
第一部：震災後、危機管理の意識はどう変化したか
第二部：幼稚園教諭の希望者激減の中での労務管理



Forum24



Forum25
幼稚園よ、どこへ行く！
総合こども園創設見送り



Forum25

振興部次長 石井 和則

総合こども園創設が見送られるなど国の動きが流動的で先の見通しが不透明な中、『幼稚園よ、どこへ行く！ 総合こども園創設見送り』というテーマのもと、多くの設置者・園長らにご参加いただきフォーラムが開催されました。午前中は基調講演として内閣府の藤原朋子政策統括官／参事官が、子ども・子育て関連3法案について説明をいただきました。主なポイントとして認定こども園制度の改善ということで、幼保連携型認定こども園の認可・指導監督の一本化や学校及び児童福祉施設としての法的な位置づけとなり、また基礎自治体(市町村)が実施主体となるため、今後幼稚園が認定こども園の認定を受ける際に、その地域の実情に合った計画を市町村と策定していくことが大きな課題となりそうです。尚、午後からは、認定こども園幼稚園型・幼保連携型の2園の園長と株式会社ポピンズ CEO 中村紀子氏にもご参加いただきシンポジウムを開催し、認定こども園になる上での課題や株式会社との連携など、今後の幼稚園運営のあり方について議論しました。今回全国に112か所の保育施設を運営している株式会社の実情を詳しく説明していただき、なぜ企業が参入するのかその一端を見ることができ、今後の幼稚園運営にとっての起爆剤となり、将来の幼稚園の課題や問題点などについて一緒に考える大変有意義なフォーラムとなりました。

Forum View

フォーラム風景

2日目(8月3日)

フォーラムを振り返って

ただお祭りのような研修会にはしたくなかった。受け身の研修で終わらせたくない。行方からには、園や保育者の参加意識が高まり、研修効果の上がるものにしたいと思い、いくつかの新しい方法を取り入れました。

一つは新企画の「ほいくの宝箱」です。各園が開園以来、園長先生をはじめ先生達が大変な努力をしながら子ども達のために環境や保育を工夫し、自園の保育を高めてきた各園の宝を表せる場にしたいと思い「ほいくの宝箱」を行い、60園からの出展参加を頂きました。

もう一つは、ほとんどのフォーラムで、ポストイトを協議の中に取り入れて頂きました。参加者一人ひとりの意見が可視化されることで、参加意識を高め、話し合いが整理されていきました。このやり方が、各協会の研修会や各園の園内研修の手法にフィードバックしていくことを願っています。

研究部、研修事業部では、1～23のフォーラムと新企画「ほいくの宝箱」を担当しましたが、企画～準備～当日運営に至る全スタッフの先生方の心のこもった努力と協力のおかげで、充実した研修会を行うことが出来ました。大きな力を発揮して頂いたスタッフの先生方に心より御礼申し上げます。

また、アンケートの多くから一般参加の先生方にとっても、たいへん満足し学びの多い研修会になったようです。ご参加頂いた先生方には、ポストイトに自分の意見を書いて活発に研究協議に加わって頂いたり、「ほいくの宝箱」を盛り上げて頂いたり、一人ひとりが一歩前に入る意識でこの研修会にご参加頂き心より感謝いたします。フォーラム申し込みでは、希望に添えないケースも多くありました。フォーラムを移って頂いた先生方には、ご協力頂き、ありがとうございました。

この関東地区神奈川大会のフォーラム研修が少しでも2学期からの各園、各保育者の保育力の向上に繋がっていくことを期待し願っております。

研究部長 亀ヶ谷忠宏



オリンピック報道陣のように!? 取材記

連日 30度を超える猛暑の中、関東地区各県から 3,300 名を超える教職員の方々に共通の研究課題のもと、互いに学び合う場としてパシフィコ横浜にお集まりいただきました。

私達広報室員は、総力を挙げて各フォーラムの内容や参加者の様子を県連HP(<http://www.shinshiyou.com/kanagawaevent.html>)に速報としてお知らせするために、2日間の大会期間中はカメラ片手に所狭しと走り回って撮影をしました(撮影枚数は実に6千枚超え!)。また、撮影の合間にも参加者にインタビューをして、今大会についての生の声を聞かせていただきました。特に大会2日目は神奈川県ならではの特色を活かすという趣旨からのフォーラム会場、鎌倉建長寺や八景島シーパラダイス、そして横浜美術館等々、プレスルームから遠く離れたフォーラムの取材ができ、各広報室員のフットワークの良さを改めて確認できました。

この取材を通して各地区、各園、各部署の先生方がとても熱心に大会を成功させようと、**広く、深く、ていねいに**行動していた事が印象的でした。

広報室 熊坂 昌志



副会長に聞く

第1回

今年度より副会長に就任した五名の先生方に
『私の考える県連の在り方や役割について』
という観点からご意見をいただき、シリーズでお送りします。
第一回目の今回は小澤俊通副会長にお聞きしました。

県連の役割を考える

五月の総会において、県連を公益社団法人にすることが承認されました。何年にも亘り特別委員会にて検討を重ね、折りに触れて理事会や協会長会にて進捗状況を報告し、会報においても、その内容をお伝えしてまいりました。改めて総会承認を頂いたことに特別委員会を代表して感謝申し上げます。公益認定申請は、この秋にも認められる見込みであり、正式に公益社団法人として出発致します。

県連は、五地区十二協会に所属する五八九園の私立幼稚園で組織されています。いかに加盟園の利益を最大化し、行政や他の団体と連携していくかが大きな課題です。

まずは神奈川県との折衝が、役割の一つです。認可・助成の権限を持つ県とは、きめ細やかな連携をとり、経常費補助金などの予算増額要望は欠かせません。教育振興連盟の後押しも受け、議会や県民局への働きかけを強めたいと願っています。次は、全日私幼連や関東地区会との情

報共有です。
国の幼児教育



副会長(振興部担当) 小澤 俊通

政策をいち早く加盟園に伝え、的確な経営判断が出来るような情報提供をする事が大切です。『幼保一体化』の議論などで、現場は振り回されましたが、幼稚園教育や園経営を考える良い機会にはなりました。まだまだ今後の動向には注目していかなければなりませんので、引き続き園長・設置者の皆様の意識を高くお持ち頂きたいと願います。

更にこれからは、各協会は市町村との関わりが大切になると思われます。県内には政令都市が三つありますが、どの市町村も財政が厳しいとの決まり文句を繰り返しています。いかに「公私」「幼保」の格差をなくしていくかが課題です。各協会の予算要望の活動を応援し、的確な情報を提供していきたいと考えます。

副会長を連続三期目という過去に例のない役回りですが、正副会長始め役員諸兄と心を合わせ、任期満了まで頑張り抜きたいと考えています。

平成25年度 神奈川県 予算要望



振興部長 武藤 保之

六月二十五日の
社会保障と税の一体改革
関連法案が三党合意で可決されましたが、子ども子育て支援法案は認定こども園法の改正になりましたが、いまだに決定されないままになっております。実は認定こども園法の三党合意でない部分の付帯決議の六項目を注意深く検証して行かなければなりません。この内容によって幼稚園運営に大きな差が生じる事になるかもしれません。特にこれからの幼児の関係機関が市町村に移ることになり、又各役所に裁量権も移る様になる為に、私達は地元の役所の連携が必須事項になるようにです。

今は政局が不安定であり、今後の状況等
を注意深く観察する必要があります。
先日神奈川県議会各会派並びに県知事(県民局長)に平成二十五年度予算要望に付いて具体的な内容の説明を県連合会会長・副会長・各部長・次長様で訪問致しました。

神奈川県は、幼稚園は園長・主任・一般教職員について同一区分に取り扱われており、人件費補助が職務・職階に応じた状況になっておりません。同じ学校でありながら小・中・高等学校の場合は校長・教頭・一般教職員の三区分にされておりますので幼稚園も三区分に格付をした上で人件費補助を算定される様をお願い致しました。

幼稚園の教職員の質の向上を目指し、各園

で一種免許所持の教員が増えています。国庫補助金を活用し、一種免許所持教員の教職員割額の増額をお願い致しました。



園児の増加にともない、実教員数やパート教員が増えている現状がありますが、これらは補助対象外の為、各園の負担が増えている実態があります。きめの細かい保育の実践を維持するためにも、補助対象教員数の見直し(本務教員数及びパート教員)をお願い致しました。

学校法人以外の私立幼稚園に対しても補助単価の増額をお願いしました。
経常費補助金(特別補助)の充実という事で下記の事柄に付いて説明を行いました。

県下の幼稚園では『預かり保育』を実施している園が年ごとに増えております。預かり保育用の保護者負担軽減の観点から更なる補助金額の充実をお願い致しました。

地域開放事業補助金の増額。

幼稚園は地域の幼児教育センターとしての機能強化が求められており、地域のあそび場・地域の子育て相談・講演会・お年寄りとの交流等の事業内容で多岐に渡る活用が期待できます。対象ではない学校法人立以外の園に対しても補助がなされる様に補助制度の充実をお願い致しました。

かながわようちえん会館における公益性の高い教育相談事業への継続的なご支援をお願い致しました。

以上の四項目に関し、県財政の厳しい処補助額の更なる充実をお願いしてまいりました。

研究部・研修事業部だより

研究部報告

新規採用教員研修会への取り組みについて

研究部次長 高 方子

五月から今年度の新規採用教員研修会がスタートしました。

この研修会は、神奈川県からの助成を受け、県と私立幼稚園連合会とが連携を取りながら実施している事業です。(ただし、県内でも政令三市ではそれぞれの私立幼稚園協会が市と連携をとりながら実施しています。)

毎回の研修実施後に記載される「ふりかえりシート(アンケート)」今年度から行っている受講者による三段階評価などを基に、県連研究部では、受講者の声を反映しながらよりよい研修会の開催が継続できるよう努めています。受講者からは、これまで行った三回の研修会評価として八九％～九六％がよかった、四％～一％がぶつつかしだったという結果がでました。

一方、神奈川県では今年度から、新規採用教員研修会について、外部評価を行いました。研修会費に対する評価についての外部評価委員会では五名全員一致でA(事業継続)という結果が出されました。また、評価委員からは様々な意見・感想等がありました。(抜粋)
・事業目的等適切だと思ふ。
・新規採用教員研修会の参加率が全体の四割という実態を考えると参加率の向上に努めて



ほしい。
引き続き参加者や現場の先生の声を取り入れ、子どもたちにとってよりよい研修を続けてほしい。

教員の定着を進める上で、研修は教員のモチベーション向上に貢献していると思われる。

予算額と見合せても、これだけのモチベーションが上げられる研修ができるのならば助成する意味はある。

新規採用教員は、ベテラン教員との力量の差等により、不安になることがあるが、新規採用教員研修に参加し、他の教員との交流を深めることによって、モチベーションの維持・向上につながっている。

研修内容によって公立・私立合同での研修を実施している。

今後の課題としては、この研修会にできるだけ多くの新規採用教員の参加を図っていくこと。教員として成長しながら永く携わっていくかのような研修の更なる向上を図っていくことなどがあげられています。

幼稚園教育課程等神奈川県研究協議会

研究部 鷲尾 紀行

幼稚園教育課程等神奈川県研究協議会が七月二十三日・二十四日にながわ県民センターで開催されました。一日目は白梅学園大学教授・無藤 隆先生から「協同的な学びについて」の講演がありました。私立幼稚園をはじめ公立幼稚園・認定子ども園・保育所・公立小学校・大学の教員等が参加し講演内容をもとに活発なグループ協議が行われました。二日目は全体会とその後三分科会に分かれ研究協議が行われました。

全体会演題
『みんなで(地域で)育み結ぶ子育て支援』
講師 淑徳大学総合福祉学部教授 柏女霊峰先生

内容については、やや保育所に足を置いた講演でありましたが、「多様な子育て支援のニーズへの対応サービス」が幼稚園側としては参考になりました。また、「実践に求められる基本姿勢」として「万華鏡は、その模様を構成する細片はまったく変わりますが、一振りですまったく違った模様を形づきます。子どもの育ち・子育ての問題の原因を深く追求するよりも、現在の状況を改善するためには何が最も有効かを考える事の方が、はるかに建設的と言える」と言う話しが印象的でした。

午後の分科会では

分科会①

「幼児が協同して遊ぶようになるための環境の構成や教師のかかりについて」

提案 梶ヶ谷幼稚園 長島 幸枝

助言 鴨居幼稚園 今井 恵子

記録 富士見ヶ丘幼稚園 川辺 公平

分科会②

「幼稚園における子育ての支援や教育課程にかかる教育時間の

終了後等に行う教育活動について」

提案 茅ヶ崎すみれ幼稚園 茂木 照子

助言 南横須賀幼稚園 長澤 英子

記録 福音幼稚園 佐竹 拓平

分科会③

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」

提案 杉之子幼稚園 鈴木 直美

助言 かぐのみ幼稚園 石井 稔江

記録 柿の実幼稚園 小島 哲史

それぞれの分科会では、貴重な提案をもとに、時間いっぱい使って熱心に研究討議を行い、助言の先生から適切なアドバイスを頂き、有意義な研究協議会が繰り広げられました。

研修事業部報告

教員免許状更新講習会を終えて

研修事業部長 岩 本 勉

去る八月七・八日、ようちえん会館において教員免許状更新講習(必修領域)会を実施したところ、一八四名の参加を得ることができました。今年はようちえん会館で行いましたが、受講生の皆さんにはちよつと窮屈な状態での講習会となっていました。年々、受講希望者は増加しています。教員免許状更新制度が定着してきたこと、幼稚園教諭対象の講習会が少ないうことが、受講者増加の背景としてあります。教員免許状更新制度については様々な議論があります。しかしながら、一日六時間の講義に評価(テスト)というタフなスケジュールにもかかわらず、参加された先生方はとても意欲的に受講されています。県連では更新対象となる先生方が安心して受講できる体制作りに努めてきました。今後、すべての参加希望者が受講できる新たな仕組みづくりが必要になっています。

今年度は十二月一日(土)、十五日(土)の二日間、白百合女子大学のご協力を得て、選択領域(十二時間)の講習会を新たに企画いたしました。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

さて、免許状更新講習(三〇時間)を修了された先生方は、県へ修了確認申請の手続きが必要となります。すでに各園には県から文書が届いていますので、ご確認ください。県のホームページからもダウンロードできます。





地区協会会長は考える

各地区協会も今年度より新体制となったことと思います。
そこで、地区協会会長にも「協会として県連に何を期待し、何ができるか」といったことを中心にご意見を伺ってまいります。

横須賀協会

やっぱり地道にコツコツです

岩波 啓之

横須賀市私立幼稚園協会



初めに告白しますが、ほんの数ヶ月前に私が市の協会長になるまでは、私にとつての県連とはまさに「雲の上」の存在でありました。時折総会などに出席させていただいても、バリバリとやられている先生方が大勢いらして、すごい所だなと思っていました。ところが何の間違いか、四月からその片隅に入れていただくこととなり、微力ながらも自分に何が出来るかを考えていた所でもありました。

現在、横須賀市私立幼稚園協会の組織率は、私立幼稚園全園三十七園に対して加盟園三十園で約八十一%、園児数では七九・一%です。経済的貢献はともかくとして、こういった団体は組織率がモノを言う場合もありますので、まずは新規加盟園を増やしていけたらと思います。幸い横須賀においてはここ数年で加盟園も四園ほど増えておりますので、この勢いを大切にして行きたいと思っております。

横須賀の加盟園の多くが、協会に入っているメリットとして情報の多さをあげておりますので、県連よりの情報を的確にすばやく各園に送り、充分そのメリットを感じていただくとともに、市の協会レベルで得た情報も必要であればすばやく県連にあげたいです。また今年度は、県議会議長が横須賀市選出の竹内英明議員となっておりまして、そちらの方からも県連をバックアップ出来ればと思っております。

また本年度、横須賀では初めて加盟園保護者代表の集まりを持ち、保護者の幼稚園団体や行政に対する熱い思いを聞きました。こういった生の声を県連に伝えることも、地区協会の大きな役割ではないかと思っております。

その他、とにかく出来ることを地道にコツコツと、まずはそこから思う次第です。

相模原協会

相模原から県連へ

金子 英行

一般社団法人相模原市幼稚園協会



加盟園四十二、園児数一〇、一七四人、この数字は相模原協会加盟園に通っている園児の数です。

一園当たりの平均人数は二四二・二人です。今年は順調ですが、来年はどうなるか分かりません。人口統計表から予測されることは、ここ数年で待機児童は解消され、その後、急速に幼児人口が減少するという事です。また新任教員の確保が困難になってくること。新聞によると保育園業界は今後五年で保育士が七五、〇〇〇人不足するといわれています。これはまさに幼稚園希望者も保育所に流れていくという事です。

今後、私立幼稚園業界には大きな波がいくつも押し寄せてくると思います。①園児減少、②教員確保の困難、③子ども園化、④消費税アップの影響、⑤幼児の保育園への移行：我々幼稚園業界にとつてまさに正念場の時が近づいています。こういう時ほど協会全体が

団結し力をつけなければなりません。

相模原協会では、人材確保の危機感により、今年初めて学生を対象に就職説明会を行いました。二十七園参加（六四・二%）し、学生も約五〇人参加いただきました。各園の評価も概ね好評で「来年もやろう」という意見が早くも出てきています。

相模原は新たな挑戦に情熱を燃やします。各幼稚園も二世から三世へと世代の移行期に入ってきました。若い力で若い発想で幼稚園の将来を見据え、発展させていくという動きが表れています。これはまさしく相模原が発信源として幼児教育経営が変わっていくような気がします。相模原は政令市にはなりましたが、今後も県連と歩調を合わせ相模原の子ども達のために頑張るつもりです。皆様宜しくお願い申し上げます。

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会

会長就任のご挨拶



父母の会連合会 会長
岩瀬久美子

今年も暑い夏となりました。子どもたちは夏休みに様々な経験をし、楽しい思い出を胸に心身共に成長し、元気に幼稚園へ戻っていききました。

先生方におかれましては新学期早々、秋の行事の準備等でお忙しいことと存じます。

さて、本年度、神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の会長を務めさせていただくことになりました。思いがけない身に余る大役に戸惑いながらも、このような機会をいただき感謝申し上げますと共に、これまで培ってきた父母の会の実績とその役割を把握し、微力ながら他の役員の皆様と共に務めて参る所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

幼児教育の中心的役割を果たしてきている幼稚園ですが、昨今は少子化や増え続ける共働き世帯の増加で保育園利用が増加し、都会でも幼稚園の休廃園が相次いでいるとのこと。また、国は幼保一体型施設への移行を促していますが、行政などの観点からもなかなか難しい壁が立ちあがっているのも現状のようです。

そのような状況下で私立幼稚園がいか

平成24年度父母連常任委員名簿			
会 長	岩 瀬 久美子	上 星 川 (横 浜)	
副会長	馬 場 絵 里	あ け ぼ の (横 浜)	
副会長	浅 川 香珠代	川崎こまどり (川 崎)	
庶 務	田久保 蘭 子	南 大 野 (相模原)	
庶 務	小 林 育 美	柿 の 実 (川 崎)	
会 計	池 田 千 重	横 浜 学 院 (横 浜)	
委 員	宮 陽 子	育 和 (横 浜)	
委 員	吉 野 麻衣子	道 和 (湘 央)	
監 事	窪 田 光 浩	横 須 賀 若 葉 (横須賀)	

平成24年度父母の会連合会研修大会

日時：11月13日(火)9:30受付 10:00開演
会場：パシフィコ横浜・会議センターメインホール
講師：内田恭子 氏(フリーアナウンサー)

教育相談室から

ほとんど聞かれなくなった「お互い様」

私は大学で授業も持っています。学期末試験での遅刻は二〇分までならば試験を受けられます。ところが三〇分遅れの男子学生が現れました。余裕があると思い学内で昼寝をしていて寝過ごしたとのこと。他の学生には試験中ながら失笑が見られます。



教育相談員 鈴木 敦子先生(臨床発達心理士)

さて、オーバータイムでこのまま試験を受けさせれば他の学生から「ずるい」「不公平」との文句がでるのは必至です。どうするか。試しに「昼寝をしていた〇〇君に試験を受けさせてもいいと思う人」と尋ねてみました。何人かが笑いながら手を挙げ、パチパチ手をたたいていました。「では皆さんの了解を取ったということで」テスト用紙を学生に渡しました。「先生、三分の一しか拍手していない」と言い出す学生も二や三やしています。ルールを守るのは当然のこと

で、本来ならばこの学生は試験を受けられませんが、しかし、他の学生もこの先長い人生で一度も遅刻しないと言い切れるでしょうか。いや「特別な事情がある」かもしれません、いつでも何でも本人にとっては「特別な事情」なのです。今ではあまり聞かれなくなった「お互い様」という言葉。今風に言うと「終わコン」(終わったコンテンツ)でしょうか。ルールを守ることは重要ですが、文句がでないようにルールを運用することも大切だと私は思います。

相談の申し込み

電話にて(社)神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申し込みください。

電話番号

045-440-3210

研修会報告

■ 研究部主催

■ 研修事業部主催

開催日	研修名	会場	講師	テーマ	参加者数
6/ 6(水)	第2回 新規採用教員研修会	神奈川県立体育 センター アリーナ	玉川大学学術研究所心の教育実践センター 白山 明秀 先生	「体験しよう、アドベンチャー教育」	111人
6/20(水)	第3回 新規採用教員研修会	かながわ ようちえん会館	十文字学園女子大学 教授 平田 智久 先生	「楽しくなければ造形じゃない」	126人
6/27(水)	小田原 オープン講座	新玉幼稚園	元玉川学園小学部教諭・玉川大学講師・ 元湘北短期大学講師 小宮路 敏 先生	「つたえよう 手のぬくもりを ～わが子にはよいところがいっぱい～」	80人
6/28(水)	第2回 統合保育基礎講座	かながわ ようちえん会館	Nippon Data社会福祉研究所副所長・ 教育福祉研究室室長 精神保健福祉士 上原 文 先生	「子どもの心の発達・子どもをめぐる環境」	107人
8/2(木)・3(金) 第27回 全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修会神奈川大会 会場：パシフィコ横浜 他					3,352人
8/ 7(火)	教員免許状更新講習	かながわ ようちえん会館	鶴見大学 教授 神田 伸生 先生	「幼児教育をめぐる変化を踏まえ、 教員の資質について考える」	184人
			鶴見大学 准教授 斎藤 晃 先生	「子どもの発達に関する理解」	
8/ 8(水)			鶴見大学 教授 山室 吉孝 先生	「新教育基本法の理解、幼少連携の理解」	184人
			せんりひじり幼稚園 園長 安達 譲 先生	「園内研修を日々の保育にどう活かすか」	
8/24(金)	湘央地区 オープン講座	伊勢原市立 中央公民館	聖徳大学児童学部 准教授 高橋 かほる 先生	「保護者との連携のポイント ～幼児のサインを成長につなげる視点を具体的に～」	100人
8/27(月)	第4回 新規採用教員研修会	かながわ ようちえん会館	鎌倉女子大学 教授 岸井 慶子 先生	「子どもの心に寄り添う保育 ～子どもの見方・捉え方～」	139人
			関東学院大学 准教授 照沼 晃子 先生	「心を表す素材と出会う ～言葉にできないだけで心は動いています～」	
8/28(火)			鎌倉女子大学短期大学部 教授 佐藤 康富 先生	「幼稚園、家庭、地域の連携協力について」	131人
			東京都市大学 教授 内藤 知美 先生	「幼児の身体発達と運動機能に基づく 体操指導について」	

平成24年度神奈川県連合会加盟園数・園児数

協会名	園数	園児数	前年度 園児数	前年度 比
公益社団法人 横浜市幼稚園協会	259	53,766	54,064	-298
公益社団法人 川崎市幼稚園協会	83	22,469	22,431	38
横須賀市私立幼稚園協会	30	5,221	5,367	-146
特定非営利活動法人 藤沢市私立幼稚園協会	33	6,635	6,640	-5
鎌倉私立幼稚園協会	22	3,174	3,204	-30
茅ヶ崎市私立幼稚園協会	17	3,783	3,751	32
湘央地区私立幼稚園協会	41	6,960	6,879	81
小田原私立幼稚園協会	12	1,330	1,371	-41
相模私立幼稚園協会	28	5,692	5,490	202
一般社団法人 相模原市幼稚園協会	37	8,565	8,303	262
逗葉私立幼稚園協会	7	931	901	30
厚木地区私立幼稚園協会	20	3,032	3,024	8
計	589	121,558	121,425	133

県連設立 1948年(昭和23年)

県父母の会連合会委員総会開催報告 鈴木 浩(やよい台幼稚園)

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の委員総会が6月12日によちえん会館会議室で開催されました。

総会は平成23年度父母連平賀彩子副会長の挨拶で開会しました。小澤俊通副会長、前年度父母連佐野早紀会長より挨拶をいただきました。前年度の役員を紹介の後、武藤保之振興部長が議長に就任され、議題審議をおこないました。

議事では、平成23年度の事業報告と収支決算報告・監査報告が承認されて、11月13日、内田恭子氏によるパシフィコ横浜で行われる父母連研修大会の実施などを盛り込んだ平成24年度事業計画案と収支予算案が承認されました。

次に平成24年度父母連役員の選出が行われ、岩瀬久美子会長をはじめとする新メンバーが決定し、岩瀬新会長が意気込みを述べました。

最後に、小澤俊通副会長から平成23年度常任委員に感謝状と記念品が贈呈され、石井稔江副会長の挨拶で閉会となりました。

編集後記

From the Public Relations Section

今年の夏は気温30℃を越える真夏日が連日のように続く、記録的な猛暑となりました。それに加えて、ゆったり休みたいせっかくの夏休みにもかわらず、前半は史上最多38個のメダルラッシュに湧いたロンドン五輪にあおられ、その後は4試合で史上3位68個の三振を奪った桐光学園の松井投手の熱投に魅せられた方も多かったのでは。20日に銀座で行われた五輪メダリストの凱旋パレードにはなんと約50万人もが応援に詰めかけたとか。本当に、暑い、熱い夏でした！

私たちの県連も、8月2日・3日に行われた第27回全日幼幼関東地区教員研修会神奈川大会には、関東各地から3,352名の先生方を迎え、五輪に負けぬ熱い研修会となりました。

五輪メダリストになるという、幼い頃からの夢をついに達成した卓球の福原愛選手のように、子どもたちが大きな夢を持ち、そのために頑張りつづける力になれる。今回の研修会が、先生方にもそんな希望と意欲を与えられれば幸いです。

さらに熱い保育の2学期を！

広報室 吉村 文比古